令和４年度太陽とみどりの里重点事業報告

新型コロナウイルス感染症は、11 月から 12 月にかけて尼子苑とデイサービスでクラスターが発生し、尼子苑では入所者と職員の約半数が感染し、ショートステイを約２週間中止したほか、３つのデイサービスではトータル２３日間営業を休止するなど事業運営に大きな支障をきたした。この影響で各事業所とも稼働率が著しく低下し、厳しい収支状況となった。

中長期事業計画の策定は、「つどいの里ひろせ」のあり方等の市の検討状況を注視しながら、引き続き情報収集と事業所移転等の調査検討を行い、策定を進める。業務継続計画については、作成を進めており、次年度の上半期中に完成させることとしている。

項目	実施計画	実施状況
１. 中長期事業計画の策定	・つどいの里運営事業所の移転に係る情報収集及び調査、検討	・市の公共施設等総合管理計画によると「つどいの里ひろせ」については１０年以内にあり方を整理することになっている。また市立病院周辺は、広瀬地域の街づくりを考えるうえで非常に重要な地域であり周辺施設のあり方の方向性等を検討していくとの市の方針が示されており、引き続き情報収集を行い、事業所移転等の調査検討を進めることとしたい。
２． 業務継続計画（ＢＣＰ）の作成	・災害、感染症発生時の入所、入居事業所の事業継続のための計画書の作成	・現在計画の作成を進めている。令和４年度で素案を固め、令和５年度上半期中に計画を完成させることとしたい。

令和４年度　事業報告書

事業所名　法人事務局

項目	実施計画	実施状況
Ⅰ　重点目標	①　利用者、職員、経営者の三者の満足を目標とし、地域に愛され信頼される施設を目指し活動を行う。	・新型コロナウイルス感染症対策や衛生管理を行いながら、出来るかぎり入所者及び利用者に寄り添った活動を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大によりボランティアの受け入れや地域の方々との交流は出来なかった。
	②　中長期事業計画の策定 事業所移転に係る情報収集及び調査、検討	・市の公共施設等総合管理計画によると「つどいの里ひろせ」については１０年以内にあり方を整理するとなっている。また市立病院周辺は、広瀬地域の街づくりを考えるうえで非常に重要な地域であり、周辺施設のあり方の方向性等を検討していくとの市の方針が示されており、引き続き情報収集を行い、事業所移転等の調査検討を進めることとしたい。
	③　業務継続計画（BCP）の作成 災害、感染症発生時の入所、入居事業所の事業継続のための計画書の作成	・現在計画の作成を進めている。令和４年度で素案を固め、令和５年度上半期中に計画を完成させることとしたい。
Ⅱ　業務目標	《法人関係》 ①　計画的な理事会・評議員会の開催	・理事会を４回（うち 1 回は書面決議)、評議員会を３回開催した。
	②　監査会の開催（中間監査・決算監査）	・監事による業務と会計についての中間監査及び決算監査を実施した。
	③　法人運営会議の開催（部署間の統括、調整、援助）	・法人運営会議を９回開催し、法人全体や各事業所間での情報共有と連携を図った。
	《総務関係》 ①　新型コロナウイルス感染対策の実施	・検温やマスクの着用、換気の徹底等基本的感染対策を継続した。 ・ワクチンについて、業務中での接種や副反応による体調不良時は特別休暇扱いにし、接種の促しを行った。 ・職員が感染時は法人独自の取り決めで、国が定めた７日間の療養期間よりも長い１０日間とし、感染拡大を防止した。（延長分の３日間は特別休暇扱いとした。）

Ⅱ　業務目標		・４月以降法人内で利用者、職員合わせて陽性者１３４名、濃厚接触者５１名発生した。 感染者が出たことで、尼子苑ショートステイでは受け入れを約２週間中止、太陽デイサービスは１４日間、比田デイサービスは２日間、広瀬デイサービスでは７日間営業を休止した。 ・補助金を活用し、グループホームなごみにプレハブの面会室を設置した。
	②　女性活躍推進法に係る一般事業主行動計画の策定	・令和４年４月１日から令和９年３月３１日までの５カ年計画を策定し、島根労働局に提出した。
	③ 的確な経営状況の把握と内部牽制体制の確立及び適切な財務管理と会計処理の実施（税理士事務所による月次会計指導）	・毎月の税理士事務所による会計指導により、正確な月次決算に努め経営状況を把握した。また会計責任者と出納職員を別に配置し内部牽制を図っている。
	④　経営透明性の確保	・法人ホームページによる財務諸表等の開示及び閲覧に供するため財務諸表等書類の法人事務局への備え置き。（6 月 27 日） ・広報誌第 57 号を 7 月に発行し決算状況等の情報発信を行った。 ・（独）福祉医療機構が運営する福祉・保険・医療の総合情報サイトへ決算状況を開示した。
	⑤　人事考課制度を適切に運用し、人材育成並びに職員の資質向上を図る。	・人事考課制度により職員個々の評価を行った。職員のモチベーションを高めるため、引き続き処遇改善一時金に結果を反映させた。
	⑥　計画的な設備更新の検討	・当法人の施設等も老朽化してきており、今後これらの更新等が、法人運営に大きく影響することから、つどいの里の移転問題とは別に、更新する設備等の洗い出しを行った。
	⑦　適正な労務管理の実施 労働基準監督署関係、社会保険関係、法人諸規則、契約等	・ストレスチェックの実施（回収率６６．７％） 　＊前年度回収率６７.０％ ・グループホームなごみの労務管理等について労働基準監督署による労働条件実態調査を受検した。 ・新型コロナウイルス感染症に対応する指針の見直しを適宜行った。

Ⅱ　業務目標	⑧ 介護職員等の処遇改善による給与体系の見直し ⑨ 介護職場への外国人労働者受け入れの検討 ⑩ 福利厚生センター事業の積極的な活用 ⑪ 安全運転管理業務に係るアルコールチェックの実施	令和４年度から処遇改善支援手当を支給し、月額の賃金改善を行っている。 専門学校生をアルバイトとして雇用していたが、正式な雇用に至っていない。引き続き外国人労働者の受け入れについて検討を行う。 福利厚生センター事業を活用し健診助成を行った。永年勤続表彰等の対象者は無かった。 ・４月より運転前と業務後に目視により、加えて１０月よりアルコールチェッカーによるアルコールチェックを実施した。
Ⅲ　能力開発目標	《法人関係》 ① 役員等の経営者研修及び人権同和研修への参加 ② 適正な法人経営に向け、監事等の監査関係研修への参加 《総務関係》 ① 全職員を対象とした職員研修の開催 ② 会計実務研修等を受講し、財務分析手法の習得に努める ③ 労務管理の十分な知識習得に努める ④ 法人窓口として接遇向上を図る	 ・安来市企業等同和問題研修会への参加：職員2名（8月31日） ・7月に開催予定であった「社会福祉法人指導監査説明会及び研修会」に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全職員を対象とした研修開催はできなかったが、外部機関主催のリモート研修に対し、法人事務局が窓口となり、１０名程度参加の小規模研修を２回実施した。各事業所より参加があった。（１１月：認知症研修、３月：虐待研修） ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 労務士と連絡を密にし、労基法等に沿った労務管理に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため職員研修等は実施していないが、今後も接遇に対する苦情などが無いように、利用者及び来苑される皆様に対し適切な接遇に努める。

令和４年度 理事会・評議員会・監査会等に関する事項

○理事会に関する事項

開催日	出席数	議案等	結果
令和４年 ５月６日 第１回 臨時理事会	８名	第１号議案　給与規程の一部改正について	承認
令和４年 ６月８日 第１回 通常理事会	８名	第１号議案　令和３年度事業報告及び計算書類、財産目録の承認並びに監事監査報告について 第２号議案　令和４年度第１次補正予算（案）について 第３号議案　令和４年度定時評議員会の招集について	承認 承認 承認
令和４年 １２月１６日 第２回 通常理事会	８名	第１号議案　令和４年度第２次補正予算（案）について 第２号議案　令和４年度第１回臨時評議員会の招集について	承認 承認
令和５年 ３月１７日 第３回 通常理事会	８名	第１号議案　定款細則の一部改正について 第２号議案　令和４年度第３次補正予算（案）について 第３号議案　令和５年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について 第４号議案　主要人事について 第５号議案　令和４年度第２回臨時評議員会の招集について	承認 承認 承認 承認 承認

○評議員会に関する事項

開催日	出席数	議案等	結果
令和４年 ６月２３日 定時評議員会	１１名	第１号議案　令和３年度事業報告及び計算書類、財産目録の承認並びに監事監査報告について 第２号議案　令和４年度第１次補正予算（案）について	承認 承認
令和４年 １２月２６日 第１回 臨時評議員会	９名	第１号議案　令和４年度第２次補正予算（案）について	承認
令和５年 ３月２７日 第２回 臨時評議員会	９名	第１号議案　定款細則の一部改正について 第２号議案　令和４年度第３次補正予算（案）について 第３号議案　令和５年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について	承認 承認 承認

○監事監査に関する事項

開催日	出席数	議案等
令和４年 ５月２６日	２名	１）　令和３年度業務及び会計決算監査 ２）　理事の業務執行状況
令和４年 １１月１０日	２名	１）　令和４年度業務及び会計中間監査 ２）　理事の業務執行状況

○内部経理監査に関する事項

開催日	出席数	議案等
令和４年 １０月２４日	２名	１）会計業務全般について

令和4年度　事業報告書

事業所名　　尼　子　苑

目　標	事　業　計　画	実　施　状　況
重点目標	①入所者一人ひとりの人権を尊重し個々の思いやニーズが実現できるよう支援しサービスの質の向上に繋げる。 ②職員の資質向上と専門的知識習得のため研修等に積極的に参加し資格取得に取り組む。 ③実習生やボランティア等の受け入れを積極的に行い地域交流につなげる。 ④関係機関等との連携を密に行い信頼関係を深める。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、家族との面会や外部との交流が制限され、個々の思いや楽しみのある生活を送ることは厳しかった。できるだけ笑顔で過ごしていただけるよう個別対応に努めた。 ○介護職員初任者研修の受講、介護支援専門員の資格取得や更新研修に取り組んだ。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため研修医や中高生の体験学習の受け入れはできなかった。福祉専門学校の介護実習生のみ2名受け入れた。保育園との交流や抹茶ボランティアなどの受け入れも中止した。 ○老人保健施設や介護医療院、療養型医療施設、居宅介護支援事業所、養護老人ホーム等と電話連絡を中心に情報交換を行った
サービス目標	①入所者の健康状態の把握に努め異常の早期発見・早期治療に努め、感染症の予防及び対策を徹底する。 ②バイキングやセレクト食・誕生食など選んで食べる機会を増やし、食べる楽しみを満喫できるよう努める。 ③事故の防止及び適切な緊急対応を行い安全に安心して生活できる快適な場の提供に努める。 ④入所者個々の状態に合った個別外出や離床を積極的に行い単調になりがちな生活に変化をつけ楽しみのある生活ができるように努める。 ⑤苑内行事や季節ごとの行事に利用者が全員参加できるよう努める。 ⑥苑内外の研修に積極的に参加し資格取得及び認定の取得に取り組む。また、接遇研修や階層別研修などに参加し全職員が各々の立場で役割を果たす。 ⑦協力病院や各関係機関との連携を密に行い信頼関係を深める。	○感染対策を徹底していたが１１月後半、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した。県・保健所・主治医の指示にて対応し3週間で治まった。合計罹患者数は入所者４８名、職員２４名。 ○毎月3回定期的にバイキングやセレクト食を実施した。特に刺身バイキングや新米おにぎり、パン、煮しめバイキングが好評だった。また、季節の果物も喜ばれた。調理の実演や鰤の解体ショーはコロナ禍により中止した。毎月1回誕生月のお祝い膳を提供し喜んで貰えた。お祝い膳の献立は、誕生者の希望を全て取り入れ作成した。赤飯・刺身・茶碗蒸しなどの希望が多かった。 ○コロナ禍の影響で外出援助が難しく、ご家族との面会制限も続いた。できるだけ入所者個々への声がけを多く行い精神面でのサポートに努めた。 ○地域の行事や自宅への外出、ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞや外食、ﾄﾞﾗｲﾌﾞなどはコロナの影響でほとんど実施できなかった。年間34名ドライブのみ実施できた。 ○毎月1回定期的に苑内研修を開催し、身体拘束・虐待・感染症・認知症ケア・事故防止等について事例検討を行い予防に繋げた。

能力開発目標	①研修等に積極的に参加し自己研鑽に努め、全職員が各々の立場で役割を認識し能力の向上を図る。 ②事故報告やｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ報告等の活用により事故の状況把握・分析・検証し再発防止能力の向上を図る。 ③職員間のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとﾁｰﾑﾜｰｸにより明るい職場づくりに努力する。	○コロナ禍の影響で外部研修はリモート研修が多く18名参加した。認知症・虐待・苦情解決・成年後見制度・介護職員初任者研修などの内容だった。苑内研修では、感染症・人権・緊急時の対応・身体拘束・虐待・認知症・介護技術など介護職員としての専門性や人権・差別などについて知識を高めた。また、各ケア検討チームを中心に定期的に話し合いを行いサービスの質の向上に繋げた。 ○インシデント報告書を積極的に記入できるよう、職員会議や日々のミーティングを利用して「気づき」について意識を高めるよう努力した。
地域目標	①保育園、中学校との交流や実習生・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱなどの受け入れを積極的に行い地域との関係を密にする。 ②地域の行事等に積極的に参加し地域住民との交流を図る。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため保育園との交流やボランティア等の受け入れは中止した。また、研修医の受け入れもできなかった。 ○コロナ禍の影響でお雛祭りや恵比須祭りなど地域の行事は全て開催されなかった。尼子苑敬老会は規模を縮小し食事会に変更したため家族や地域の方々との交流はできなかった。
業務目標	①長期入所については定員82名。稼働率98%を目標とする。 ②短期入所については定員8名。稼働率75%以上を目標とする。	○長期入所については、年間延べ27，862人、稼働率93.07%の実績だった。前年度に比べ稼働率4.51%減少した。 ○短期入所については、年間延べ1，888人、1日平均約5.17人、稼働率　64.62%の実績だった。前年度に比べ稼働率5.89%減少した。長期・短期入所ともに減少の主な理由は、新型コロナウイルス感染症拡大によるもので短期については、特に2週間受け入れを中止したことが大きく影響した。

令和4年度 事 業 報 告

事業所名　尼 子 苑

1. 年間行事

4月	お花見　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:桜餅　筍とわらびの煮物　ぜんまいの和え物
5月	芝桜見物　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:炊き込みご飯　揚げ団子　しいたけ梅和え
6月	笹巻き　菖蒲湯　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:ナポリタン　いんげん煮物
7月	はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:リゾット　ちらし寿司　さつま芋天ぷら
8月	はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:トマト入り玉子焼き　芋のつる煮　胡瓜酢の物
9月	尼子苑敬老会　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:切干大根煮　ピーマン入りお好み焼き
10月	運動会　秋の味覚を味わう会　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:栗ご飯　香茸ご飯
11月	紅葉ﾄﾞﾗｲﾌﾞ　白鳥見物　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:栗入り赤飯　あらめと里芋の煮物
12月	ゆず湯　忘年会　餅つき　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:玉子焼き　なめこ大根生酢
1月	とんどさん　餅つき　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:そば　炊き込みご飯　味噌汁
2月	節分　喫茶　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:揚げ饅頭　雑炊
3月	お花見　喫茶　はしまﾁｬﾚﾝｼﾞ:煮しめ　玉子焼き　茸と梅の澄まし汁

※その他、バイキングやセレクト食は毎月定期的に実施した。保育園交流、抹茶VO
買い物、外食は新型コロナウィルス感染症流行のため実施できなかった。

2. 研修

施 設 内 研 修	外 部 研 修
・事業計画　事務分掌について	・第5回中国地区老施協研修大会
・倫理　法令遵守について	事例発表(提出)
・身体拘束廃止について	・介護職員初任者研修
・虐待防止について	・認知症ケア研修会
・事故防止について　事例検討	・福祉サービス苦情解決研修会
・感染症予防について	・成年後見制度活用講座
新型コロナウイルス感染対策 食中毒予防　ノロウイルス 尿路感染　ESBL感染対策	・高齢者虐待の防止に係わる研修会 ・県老施協研修大会 ・介護支援専門員更新研修
風邪　インフルエンザ予防対策 肝炎　皮膚疾患など	
・救急救命について 心肺蘇生　救急対応	
・防災研修 土砂災害　夜間火災	
・看取りケアについて	
・復命研修 ① 中国地区老施協研修大会 事例発表 「はしまチャレンジ」	
② 腰痛予防について やる気・本気・根気	
③ 健康な体づくりの為の食生活 効果的な食生活	
④ 高齢者虐待の防止に係わる研修	
⑤ 認知症ケア研修 事例検討 BPSD対応	

3. 入退所状況

入所者数	46名			
（参考） 入所前の状況	自　宅 1名	施　設 19名	病　院 26名	その他 0名
退所者数	47名			

4. 入所者数 （R5.3.31現在　要介護度別）

介護度	要介護　1	要介護　2	要介護　3	要介護　4	要介護　5	合計
人数	0名	0名	31名	27名	23名	81名

5. 短期入所利用者状況

	延べ人数	稼働率
4月	177	73.75
5月	193	77.82
6月	166	69.17
7月	189	76.21
8月	152	61.29
9月	161	67.08
10月	163	65.73
11月	178	74.17
12月	79	31.85
1月	126	50.81
2月	116	51.79
3月	188	75.81
合計	1,888	64.62

令和4年度　　事業報告書

事業所名　　太陽デイサービス

目　標	事　業　計　画	実　施　状　況
重　点　目　標	・介護ニーズを把握して、適切な支援につなげる。 ・利用者の自己決定権を尊重して、得意分野を活かす。 ・レクリエーションと趣味活動を充実させ、満足度の向上を図る。 ・医療依存度の高い利用者等、受け入れ対応可能な範囲を拡大していく。	・主たる介護ニーズである入浴困難や生活不活発、介護負担軽減などに対してデイを利用していただき、利用者個々に合った適切な支援を実施した。 ・自立支援である自己選択・自己決定・自己遂行できるよう自己決定権を尊重し、利用者の得意分野の発掘をした。今後はそれを活かす取り組みを実施していく。 ・年間レク活動の統計は、活動レク27%、創作活動46%、外出支援4%、その他季節行事や習字、喫茶等23%となった。充実とまではいかなかったが利用者満足度は聞き取りでは高かった。 ・医療依存度の高い利用者の利用はなかったが、出来る限りの受け入れ体制は整えている。
サ　ー　ビ　ス　目　標	・日常生活動作や個別に聞き取り、介護ニーズを見出し、その人に合った支援をする。 ・利用者のやりたいことを尊重し、その人の持つ能力を最大限発揮できる様支援する。 ・希望の多いスポーツレクや外出支援、趣味活動の充実を図る。 ・どのような困難事例に対しても安心してサービス提供が出来る環境を作る。	・利用者の介護ニーズとして入浴したい、楽しみな日常を送りたい、人と話したい等があり、それらを満たす事のできる支援に努めた。 ・利用者のしたい事の調査を行い、身体を動かす事や外出、趣味活動が多く、出来る限りそれらを尊重し、その人の能力を発揮できるように支援した。 ・コロナ禍とコロナ発生もあり希望の多いスポーツレクや外出支援は自粛せざるを得なかった。その分、創作活動や習字、手芸など趣味活動の充実を図った。 ・困難事例に対して職員の資質向上と環境整備により安心なサービス提供ができる様に努めた。
能　力　開　発　目　標	・研修等に参加し、職員の資質向上に努め、質の向上を図る。 ・内部研修等で職員のレベルアップと職員間の連携、チームワークの強化になげる。 ・職員の資格取得。	・新型コロナウィルス感染防止に努め、外部研修に10件参加した。 ・老施協の研修動画を活用したオンライン研修1回も含め、ほぼ毎月のペースで施設内研修を実施し、職員の知識やノウハウの習得に努めた。 ・職員が1名、介護福祉士の資格を取得した。
地　域　目　標	・ボランティアの受け入れを行う。 ・デイサービス祭りを行う。 ・下山佐交流センター文化祭始め町内行事に積極的に参加する。	・新型コロナウィルス感染症防止のためボランティアの受け入れは出来なかった。 ・新型コロナウィルス感染症防止のためデイサービス祭りは中止した。 ・布部の平和のつどいへ利用者の方が絵や字を描かれた灯篭を出品し展示していただいた。
業　務　目　標	・追加利用や振り替え利用の提案をし、利用キャンセルを減らす。 ・毎月、空き状況を居宅支援事業所に伝え、新規利用者の開拓や現利用者の利用増につなげる。 ・出来る経費の削減と業務の効率化を図り、時間外を減らす。 ・利用者の状態をケアマネ・家族に伝え、介護度の見直し等検討してもらう。 ・健康観察を行い、状態変化の早期発見をし、利用者の欠席・入院を減らす。	・キャンセルの振り替えや追加利用の提案、実施をしたが延べ利用者数は結果的に前年度比で約6%程度の減少となった。 ・空き状況等も居宅支援事業所に伝え、新規利用者14名を受け入れたが終了者は27名、入院者数も延べ31名と多かった。 ・利用者の現状（身体状況）をケアマネ・家族と情報共有し、介護度に応じたサービス提供に努めた。 ・経費削減（裏紙使用、節電等）と業務の効率化による時間外の縮減に努めた。 ・4月・8月・11月に職員・利用者がコロナウィルスに感染し、感染拡大防止のため計14日間営業を休止した。さらに下半期は、利用者やその家族のコロナ罹患が多く、利用減につながった。又、介護度が高く利用回数の多い利用者の利用終了者が施設入所や在宅生活困難などの理由で多くみられた。

＜資料1＞

各種行事・外出支援について

4月	広瀬町内桜花見外出 伯太チューリップ花見外出	10月	運動会　長寿お祝いの会
5月		11月	干し柿作り
6月		12月	クリスマス会
7月	ふれあい書道展出品	1月	新年会
8月	七タイベント	2月	節分豆まき
9月	敬老会、布部平和のつどい作品出品	3月	広瀬町内桜花見外出

＜資料2＞

研修参加状況（オンライン研修を含む）

	介護職員	看護職員	生活相談員	管理者	合計
常勤職員	15	11	14	15	55
非常勤職員	37	7			44

＊主な研修内容

外部研修：「事故防止・リスクマネジメント研修」「」「高齢者施設における感染対策」「事例から学ぶ認知症の人の支援」
「介護職が知っておきたい虐待・身体拘束」

内部研修：「認知症対応力向上研修」「接遇研修」「倫理と法令遵守に関する研修」「緊急時対応に関する研修」「認知症研修」「食中毒研修」「感染症対策研修」
「介護職が知っておきたい虐待・身体拘束」「新型コロナウイルス感染症対策研修」「対人援助職者は権利擁護をどう考えるべきか」

＜資料3＞

利用実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4平均	R3平均
R4延人数	497	410	471	487	395	463	479	321	368	317	341	386	411.25	437
平均利用者数	19.9	17.8	18.1	18.7	18	17.8	18.4	15.3	14.2	13.2	14.2	14.3	16.65	17.1
稼働率	70.8	58.4	67.09	69.37	54.18	65.95	68.23	45.73	52.42	48.92	52.62	52.95	58.89	62.6

令和4年度　事業報告書

事業所名　　比田デイサービスセンター

目　標	事　業　計　画	実　施　状　況
重点目標	◯個人の意志を尊重し地域の中で楽しみを持ち生活ができるよう支援す	・在宅生活を踏まえ、日常生活の状況に合わせたサービス提供に努めた。 ・文化祭に個人作品や共同作品の展示を行う事で、地域行事に参加出来るレクリエーションの提供を行った。
サービス目標	○利用者の生活に寄り添う介護を行う。	・利用者、家族の希望を聞きケアマネジャーと情報共有し、個々の日常生活動作が維持出来ると共に、残存機能を活かせる様に支援した。 ・利用者の希望に応じて外出支援（ドライブ）を提供し四季を楽しんで貰った。
能力開発目標	○積極的に研修に参加して介護技術等の専門的スキルアップを図る。 ○スタッフ全員が個々の役割を認識し質の向上を図る。	・施設内での研修を実施し、コロナウイルス感染拡大防止に努めた。 ・内部研修を中心とし、インシデント等々の改善点を出し合い危険予知トレーニングを行った。 ・利用者、家族に向けてアンケート調査を実施し、サービスの質の向上に努めた。
地域目標	○地域貢献活動の実施	・コロナ禍であり地域行事が開催されず、比田デイサービス交流会も中止。 ・コロナ感染拡大防止の為、ボランティアの受け入れ自粛中。
業務目標	○利用者の必要に応じ受け入れ対応にて一日平均15名を目標とする。	・1日平均利用者13.8名 ・入院、短期入所利用が増えた事が大きく、冬季の積雪によっても欠席が増えた。

資料①

研修報告

	介護職員	看護職員	生活相談	管理者	合計
常勤職員	1	1	1	1	4
非常勤職員					0

☆ 主な研修内容

☆ 内部研修　　・感染予防対策研修　・認知症介護基礎研修　・高齢者虐待防止研修

資料②

外出支援・各種行事

月	内容	月	内容
4月	桜見学ドライブ	10月	運動会
5月	芝桜見学ドライブ	11月	亀嵩　総光寺　紅葉見学ドライブ
6月		12月	クリスマス会
7月		1月	とんどさん
8月		2月	節分豆まき
9月	敬老会	3月	

資料③

利用実績表

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和4年度平均	令和3年度平均
R4年度延人数	390	390	390	378	386	366	354	317	316	266	312	386	354	377
平均利用者数	15.0	15.0	15.0	14.5	14.3	14.1	13.6	13.2	12.2	11.1	13.0	14.3	13.8	14.6
稼働率	83.3%	83.3%	83.3%	80.7%	79.4%	78.2%	75.6%	67.7%	67.5%	61.5%	72.2%	79.4%	76.0%	81.0%

令和4年度　事業報告書

事業所名　　広瀬デイサービス

目標	事業計画	実施状況
重点目標	住み慣れた場所で主体的に生活できるよう自立支援、介護予防に取り組む	利用者の「出来る能力」を生かし、住み慣れた場所で利用者の望む生活ができるよう自立支援、介護予防に取り組んだ。
サービス目標	「生きがい作り」と社会参加	地域貢献活動を通し、利用者が社会の一員としての役割が持てるよう支援した。
	口腔ケアの標準化	介護予防の視点から口腔ケアに重点を置き、健康維持、増進に努めた。
	認知症の理解と家族支援	研修や事例を通して認知症の理解、認知症を取り巻く現状について学び、認知症ケアの質の向上に努めた。
能力開発目標	外部研修	オンライン研修を活用し、多くの職員が外部講師の研修を受講することができた。 ＊別紙資料1参照
	内部研修	復命研修、内部研修を定期的に行い、質の向上に努めた。
	資格取得	介護支援専門員1名、介護福祉士1名
地域目標	地域貢献活動の実施	ひろせ保育園へのプランターの寄贈、広瀬・布部・山佐小学校、広瀬中学校へ手作り雑巾の寄贈。地域交流は新型コロナ感染防止の為中止。外部ボランティアの受入れ中止中。 ＊別紙資料2参照
業務目標	1日平均22名 稼働率82％以上	○1日平均利用者数22.0名(前年度22.0名) ○平均稼働率79.8%(前年度81.7%) ○平均キャンセル率11.6%(前年度7.8%) コロナ7波、8波による2度の休業(延7日間)により稼働率の低下、キャンセル率の上昇が見られた。R5.2月より徐々に営業成績は回復したが、稼働率は、目標を達成することができなかった。しかし、利用者の平均介護度が1.7となったことによりわずかではあるが増収となった。 ＊別紙資料3参照

＜資料1＞

研修参加状況（オンライン研修含む）

	介護職員	看護職員	歯科衛生士	生活相談員	管理者	合計
常勤職員	1	1		1	1	4
非常勤職員	7	0	0			7

＊主な研修内容

高齢者虐待防止取り組み、介護支援専門員更新・実務研修、社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症対応研修

認知症研修等

＜資料2＞

地域交流、外出支援等について

4月	桜花見、チューリップ見物	10月	真菰見物、真菰狩り
5月	つつじ見物、史跡巡り、ひろせ保育園プランター寄贈	11月	紅葉狩り、ひろせ保育園プランター寄贈、山佐・布部小学校、広瀬中学校雑巾寄贈
6月	紫陽花見物、ふれあい書道展出品	12月	広瀬小学校雑巾寄贈、お楽しみ会、しめ縄作り
7月	紫陽花見物	1月	とんどさん、初詣、ふれあい書道展出品
8月	外出支援なし	2月	白鳥見物
9月	お楽しみ会	3月	桜花見

＊川柳投稿：月刊デイ（月1回）、山陰中央新報（年3回）、広瀬交流センター（年3回）

＜資料3＞

利用実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4年度平均	R3年度平均
R4年度延人数	578	581	618	603	527	559	583	561	401	485	533	651	556.7	569.5
平均利用者数	22.2	22.3	23.8	23.2	19.5	21.5	22.4	22.4	20.1	20.2	22.2	24.1	22.0	22.0
稼働率	82.3%	82.8%	88.0%	85.9%	72.3%	79.6%	83.1%	79.9%	57.1%	74.9%	82.3%	89.3%	79.8%	81.7%

令和4年度　訪問介護事業報告（太陽ヘルパーステーション）

項目	実施計画	実施状況
重点目標	柔軟な受容と観察 信頼関係の確立	・利用者・家族の生活や介護状況から、在宅生活への思いを尊重し援助に努めた。出来難い事に対しても多様な方法を検討、提案し、生活の継続を援助できた。 ・心身・生活面の変化に早期に気づき、状況把握やサービスの再検討を行い、家族より「何でも相談できる」、との言葉や利用者の「訪問による安心」に繋げられた。
サービス目標	満足感の得られるサービス提供	・終末期の在宅支援が増えて来た。訪問看護等他事業所と連携を図り、一緒に歌を歌う事等心のケアも交えながら援助に努めた。現在も在宅生活継続を頑張っておられる利用者もあり、職員の励みにもなっている。
能力開発目標	ヘルパー連絡会 外部研修 内部研修	・毎週月曜12：30～定期に実施　全員 ・福祉サービス苦情解決　1名（管理者） ・認知症対応力向上　1名（サ責） ・県老施協研修大会　2名 ・虐待防止について　全員 ・緊急時対応（心肺蘇生法）　全員 ・感染防止対策について　全員 ・生活保護について　全員
地域目標	地域との関わり	・民生委員、近隣者の方々のご協力で、サービスで補えない部分を支えて頂き感謝をしています。職員間で利用者状況から、地域で不足している事等の意見交換もしており、今後も継続し安心安全な在宅生活支援に努めます。
業務目標	目標利用者数 月平均37名 目標利用延人数 3，684名 収益向上の取り組み	・月平均31名（前年度33名） ・利用延人数3，353名 ・コロナ禍、職員不足等により利用者数は目標未達成となった。しかし、状況に応じた追加訪問や終末期の緊急対応などにより身体介護の提供が増加し、収益は126万円の増収となった。 ・新規依頼はあるが当事業所体制が伴わず、受け入れが出来無い事も度々有り申し訳なかった。来年度も出来る限りの受け入れに努め、当地域の在宅支援の寄与して行く。

令和4年度　障がい者自立支援事業報告（太陽ヘルパーステーション）

項目	実施計画	実施状況
重点目標	居住地域社会での生活の継続 信頼関係の構築と保持	・家族、近隣者との関係性も良好に保持出来ており、日々の生活面や緊急時の協力も得られていた。 ・本人、家族の思いの傾聴や助言、希望の実現を目標に、担当相談員とも検討を重ねる事で、ヘルパーに対する安心感や信頼関係の構築に努め、その維持が出来ている。
サービス目標	出来る事に着目し意欲を促す	・共に行うサービス提供により、利用者が自分で出来る「嬉しさ」、次に何が出来るか「楽しみ」、出来ている事の「自信」が、活気のある表情や意欲から見受けられ、家族からも安心との言葉も頂いた。
能力開発目標	ヘルパー連絡会 外部研修 内部研修	・毎週月曜日12：30～定期に実施　全員 ・福祉サービス苦情解決　1名（管理者） ・虐待防止について　1名（管理者） ・障がい者フォローアップ研修　1名（サ責） ・緊急時対応（心肺蘇生法）　全員 ・感染防止対策について　全員 ・生活保護について　全員
地域目標	地域との関わり	・民生委員や近隣者の協力を要す困難ケースは無かったが、利用者所在確認を要す際、日頃の生活状況から所在予測をされ、ヘルパー支援をして頂きました。今後も協力と関係保持に努めたい。
業務目標	目標利用者数 月平均7名 目標利用延人数 420名 収益向上の取り組み	・月平均3．5名（前年度5．6名） ・利用延人数221名 ・介護保険の利用者対応と、新規依頼も殆どが精神疾患等のサービス提供困難者で受け入れが出来ず、利用者数は減少した。 ・事業所体制を踏まえながら、新規受け入れ等の事業所の情報提供は継続して行っていく。

Ｒ４年度　太陽ヘルパーステーション利用実績表

☆訪問介護（介護保険）☆

月		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	年間
延回数		**315**	**307**	**315**	**279**	**300**	**282**	**283**	**270**	**245**	**216**	**244**	**297**	**3,353**
内訳	身体介護	102	99	92	78	70	71	81	87	63	59	58	73	933
	身体・生活	151	137	144	135	161	137	134	118	109	95	121	138	1,580
	生活援助	16	21	21	14	13	14	13	12	13	13	13	14	177
	訪問型独自	46	50	58	52	56	60	55	53	60	49	52	72	663

☆訪問介護（障害福祉サービス）☆

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	年間
R3年度利用実人数	5	5	5	7	7	7	6	5	6	5	5	4	67
利用延回数	32	30	33	33	45	46	43	35	35	30	23	21	406
R4年度利用実人数	**3**	**4**	**4**	**4**	**3**	**4**	**4**	**4**	**3**	**2**	**4**	**3**	**42**
利用延回数	**18**	**16**	**20**	**21**	**19**	**22**	**18**	**23**	**16**	**9**	**19**	**20**	**221**

令和4年度事業報告書（在宅介護支援センターひろせ）

項目	実施計画		実施状況
重点目標	①ケアマネジメントに必要な医療との連携・多職種協働の実現に努める。 ②総合相談支援における知識と技術を身につける。		・個別地域ケア会議に参加し、自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメントの実践力及び資質向上に努めた。 ・主任介護支援専門員連絡会に参加し、多職種とのネットワーク構築に向けて、協働して取り組む事が出来た。 ・地域ケア会議を開催し、多職種において地域課題を共有し、解決に向けた意見集約を行う事が出来た。 ・医療機関と連携し、入退院支援を行った。認知症疾患医療センターや松江圏域重症神経難病患者の連絡会の研修に参加し、情報共有やケアマネジメントの知識・実践力の向上に努めた。
サービス目標	居宅介護支援事業		・自己点検シートの活用や、研修への参加により、知識・技術・倫理性の向上に努めた。 ・行政・包括支援センターとの連携や研修への参加により、他法の知識習得に努めた。 ・医療機関と連携を図り、退院後のスムーズな在宅生活に繋げる事が出来た。
	総合相談支援事業		・11月18日、中学校校区別地域ケア会議開催。個別地域ケア会議に参加し、地域課題を共通認識し、課題解決に向けて、ネットワークの構築、在宅医療・介護の連携を図った。 ・民生委員や地域住民より情報収集し、実態把握及び地域課題の把握に努めた。 ・24時間相談対応し、適切な情報提供や専門的な支援、包括支援センター等の関係機関との連携を図った。 ・7月15日、主任介護支援専門員連絡会に参加し、高齢者支援に関するインフォーマルサービスについて、民生委員と情報共有を行い、関係づくりの構築が図れた。
	安来市地域支援事業		・新型コロナウイルスによる感染拡大防止対策の為、年2回の家族介護者教室は中止となる。今後も、行政との連携を図り、介護者へ介護予防に必要な知識の提供を行っていく。
	介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務		・包括支援センターの委託を受け、介護予防のための効果的な支援を行った。
	要介護認定調査委託業務		・研修への参加等により、常に新たな知識の研鑽に努めた。
能力開発目標	外部研修	介護支援専門員専門研修Ⅰ	eラーニング：4月7日～5月18日 集合研修：5月19・20日、6月7・8日、28・29日（6日間） 1名
		認定調査員研修	9月30日、介護保険認定調査員現任研修 2名
		ケアマネジメント研修	6月15日、10月19日、12月21日 個別地域ケア会議（自立支援型ケアマネジメント会議） 3名 11月21日、個別地域ケア会議公開講演会 1名 1月28日、ケアマネ協会研究大会 1名
		スキルアップ研修	5月27日、対人援助の学び直し（オンライン） 2名 5月28日、山陰認知症ケア研究会 1名 8月12日、新型コロナウイルス感染症対応研修(オンライン) 4名 9月20日、重症神経難病患者の自然災害避難対応（オンライン） 1名 10月28日、成年後見制度 1名 11月5日、認知症対応力向上研修（オンライン） 1名 1月28日、ケアマネ研究大会（オンライン） 1名 3月1日、パーキンソン病支援(オンライン) 3名 3月1日、ヤングケアラー支援（オンライン） 2名 3月7日、ケアプラン点検基礎研修 1名 3月17日、高齢者虐待防止研修会（オンライン） 1名
	内部研修	法人内研修	・個別ケース会議、法令順守、リスクマネジメント 全員 ・介護支援専門員毎に個人目標をたて、自己研鑽に努めた。 全員
		復命研修	6月1日 「認知症ケア研究会」「対人援助の学び直し」 4名 10月5日「認定調査員現任研修」 全員 11月22日 「成年後見制度」「認知症対応力向上研修」 全員 2月15日「ケアマネ研究大会」 4名 3月8日「パーキンソン病支援」「ヤングケアラー支援」「ケアプラン研修」 全員 3月29日「高齢者虐待防止研修」 4名

地域目標	地域課題の把握　地域づくり	・個別地域ケア会議や支援業務を通し、包括支援センター、行政、民生委員や地域住民との情報共有を行い、地域課題を把握し、地域づくりに繋がる様に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、サロンへの参加はなし。
	高齢者虐待防止協議会実務者会議	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面方式による会議への参加により、情報共有や多職種連携を図った。
業務目標	目標利用率	○介護給付 （月160件、居宅支援費Ⅰ:117件、居宅支援費Ⅱ:43件目標） ・月平均:159件、居宅支援費Ⅰ:114件、居宅支援費Ⅱ:45件 ○予防給付（月24件目標） ・月平均:25件 ○入院時情報連携加算・退院退所加算の算定 ・入院時情報連携加算Ⅰ:延べ60件、Ⅱ:延べ22件 ・退院退所加算Ⅰ２:延べ8件 ・退院退所加算Ⅱ１:延べ5件、Ⅱ２:延べ7件 ・通院時情報連携加算:延べ6件 ○特定事業所加算Ⅱを継続して算定 ・介護支援専門員実務研修:1名の受入れ
	収益向上の取り組み	・入院時情報連携加算、退院退所加算、他加算について、確実に算定出来る様に努めた。 ・特定事業所加算Ⅱを継続して算定出来るよう、毎週水曜日に定例会を開催し、利用者の情報共有・状況把握、事業所の資質向上に努める等、加算に係る基準の遵守を行い、減算防止に努めた。 ・医療機関や包括支援センターとの連携を図り、新規利用者、困難事例の受け入れに努めた。

令和４年度　総合相談支援業務実績報告書　（年度合計）

様式　E

事業所名　在宅介護支援センターひろせ

１．相談方法（延べ数）

		延べ数
1	電話	86
2	来所	9
3	訪問	16
4	その他（メール・郵便・会議）	1
計		112

２．相談人数

		計
1	実人数	81
	内、介護認定を受けていない人	27
2	延べ人数	112
	内、介護認定を受けていない人	37

３．相談種別／件数（※重複あり）

		延べ数
1	認知症(疑い含)	12
2	状況(実態)把握	3
3	介保制度(申請･サービス含)	101
4	福祉用具･住宅改修	37
5	虐待(疑い含)	0
6	生活困窮	0
7	金銭問題(滞納･未納･債務含)	0
8	困難事例	0
9	ケアマネ支援	3
10	成年後見制度	0
11	権利侵害(金銭搾取･消費者被害)	0
12	家族不和	0
13	社会的孤立(引きこもり含)	1
14	地域とのトラブル	0
15	障がい･難病	0
16	8050･20(ダブルケア含)	0
17	ヤングケアラー	0
18	介護疲れ	0
19	介護と仕事･介護離職	0
20	住居確保･住み替え	0
21	ごみ屋敷	0
22	施設入所支援	1
23	入退院支援	31
24	受診支援(同行含)	0
25	ギャンブル･薬物(依存症含)	0
26	アルコール(依存症含)	0
27	移動･交通(免許返納含)	0
28	就労支援	0
29	苦情関連	0
30	その他	3
合計		192

４．相談経路別区分（新規）

経路	実人数
本人	2
家族・親族	20
ケアマネジャー	0
行政機関	0
医療機関	18
民生児童委員	0
包括支援センター	38
近隣住民・知人	0
警察	0
介護事業所	3
その他関係機関	0
計	81

５．年齢別件数

	実人数
～64歳まで	0
65～74歳まで	10
75～84歳まで	13
85歳～	58

６．校区別件数

	実人数
一中校区	4
二中校区	1
三中校区	3
広瀬中校区	71
伯太中校区	0
市外	2

７．訪問による実態（状況）把握件数

	実人数
ひとり暮らし世帯	11
高齢者世帯	18
計	29

８．時間外対応（土・日・祭日含む）

延べ件数　（月合計）	0 件
延べ時間　（月合計）	0 h

９．個別地域ケア会議の開催

ケース対象者名	開催日

《添付資料》※個別相談票（新規分）

令和４年度　事業報告書

グループホームなごみ

目標	事業計画	実施状況
重点目標	・その人らしさを忘れることなく生活ができるように支援する ・感染対策を取りながら通常の生活が送れるように支援する	・重度化に伴い介護量が増え、認知症の方に寄り添うことができにくい状況になっているのが日常化しているが、個人の「出来ること」「支援が必要なこと」を考えながら生活の支援を行った。 ・新型コロナウィルス感染症の影響のため、面会が思うようにできなかった。秋に面会室ができ、面会室を利用し、面会をしていただき、喜ばれた。 利用者の方が新型コロナウィルスに感染されることなく、通常の生活を送っていただけた。
サービス目標	・各ユニットで利用者の状況に合わせた支援がスムーズに提供できる ・感染対策を取りながら外出支援・季節の行事を行い、活気と笑顔のある生活を支援する ・適切な支援が行えるように医療との連携を図る	・各ユニットの重度化や高齢化が同じではないため、ユニット別に支援の内容が大きく違ってきたが、状況の把握を密にし、共有意識を持ち支援につなげた。 ・感染対策を取りながら、ドライブ・外出支援と、「サンマ焼き」等の季節行事を行った。 ・インフルエンザワクチンやコロナワクチンの接種に関しても安来市立病院・河村医院との連携でスムーズに行うことが出来た。
能力開発目標	・職員の資質向上・資格取得を目指す ・目標を理解し、どう行動すべきか理解をしながら、チームとして貢献できる	・内部研修を行い、資質向上に繋げた。職員1名が介護福祉士の資格取得。 ・各ユニットで事例を検討し、次機会があれば、全国大会の事例発表ができるように準備をしたい。 ・問題点や改善点などの問題提起をした。 ・苦手なこと・不得手なこといろいろあるがチームとして補いながら支援を行った。
地域目標	・新しい場所で、地域に向けた「なごみカフェ」認知症カフェの検討を行う ・感染状況により、ボランティア・実習生の受け入れについての判断を行う	・新型コロナウィルス感染症防止のため認知症カフェは実施しなかった。 ・島根総合福祉専門学校の学生２名の実習を受け入れた。
業務目標	・目標利用率　98%	・稼働率９８．５%。 ・空床利用で短期入所も受け入れた。

・入所状況（令和５年3月31日現在）

要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計
１	４	８	３	２	０	18名

・入居者の外出一覧・地域との交流行事

月	内　　容
4月	花見（桜、芝桜）・チューリップ見学・八幡町土手で弁当
5月	母の日イベント・赤江へいちご狩り
6月	父の日イベント・笹巻作り
7月	パンバイキング
8月	七夕まつり・お盆行事
9月	敬老の日お祝い膳
10月	収穫祭（サンマ焼き）・比田へ柿取り・紅葉狩り
１１月	運動会・ミカン狩り・蕎麦打ち・面会室完成のお披露目・消防訓練（自治会
12月	忘年会・クリスマス会・しめ縄作り
１月	新年会・書初め・とんどさん・かくし芸大会
２月	節分・白鳥ドライブ
３月	蕎麦打ち・ひな祭り

誕生月のお祝い膳と誕生会
週1回の手作りなごみ食（その他は外食産業利用）
ご近所散策
お菓子作り

・研修報告

＊主な研修内容
・ｅーランニング研修
（法令遵守・プライバシー保護・緊急時の対応
・事故対応・認知症について・接遇・感染症研修・コミュニケーション）

＊内部研修
・新人職員研修
・成年後見人制度・権利擁護について
・身体拘束・虐待について
・災害時対応研修
・法令遵守・プライバシーの保護について
・救急救命研修

・退所者数・理由

尼子苑	２名
やすぎの郷	１名
安来市立病院	１名

・入院

7月	2名（体調不良）
９月	1名（体調不良）
１０月	2名（体調不良・骨折）
1月	2名（体調不良・精神的）

事業報告の附属明細書

令和 4 年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人　太陽とみどりの里